

# 札労研だより

平成28年 1月号

No. 222

発行  
(一社)札幌建設業協会  
労務研究会



## 平成26-27年度 一般国道337号 当別町 札幌大橋床版工事

発注者：北海道開発局 札幌開発建設部

工事内容：工事延長L=1,020m 橋長L=982.5m

施工：田中・櫻井千田 経常建設共同企業体

鋼橋上部 床版工 他

工期：平成27年3月30日～平成27年11月30日

## 目次

新年のご挨拶 .....	(一社)札幌建設業協会労務研究会委員長	大谷 浩樹	2
新年のご挨拶 .....	札幌中央労働基準監督署長	吉村 直起	3
新年のご挨拶 .....	札幌東労働基準監督署長	羽生 和彦	4
第58回全国建設労働問題連絡協議会並びに第34回全国労研交流会議の報告 .....			5～7
平成27年度「けんろく会」活動報告 .....			8
我が社の安全衛生管理活動の紹介(新太平洋建設株) .....			9～11
札労研メモ .....			12～14
札労研委員名簿 .....			15
カメラが見た安全の工夫あらかると .....			16



## 新年のご挨拶

(一社)札幌建設業協会 労務研究会

委員長 大谷 浩 樹

新年あけましておめでとうございます。

札労研会員の皆様方には日頃より業務多忙の中、労研活動に積極的にご協力頂きありがとうございました。また行政、札幌建設業協会の皆様をはじめ多くの方々のご指導、ご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。本年も変わらぬご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

今年で4回目の私の新年挨拶となりますが、過去の内容を改めて見ると毎回のよう新年早々、建設業は「厳しい」とか「深刻」といったようなことばかりで道内建設業にとってはなかなか素直に喜べる状況にはならないようです。今回こそは明るい建設業？と思いましたが考えるほどにマイナスの要素ばかりが顕在しており、今年も道内建設業にとっては厳しい一年となりそうな感じがしています。

昨年、北海道の公共事業は大幅に減少し、今年も先行きが不透明な状況であり、その中で建設労働者の高齢化や若年者の入職問題、そして社会保険未加入問題など様々な問題が山積しているのに加え、昨年には杭データの流用等が判明し大きな問題となっております。

また、労働災害に関しては、昨年の道内建設業において死亡災害が急増し、休業災害も長期に渡り横ばい状態が続きなかなか減少に転じません。その理由は定かではありませんが、近年いろいろな作業所を廻る度に思うのは安全書類の多さです。決して悪いことではないのですが、結果として元請けも下請けも書類を作成することが目的となってしまう作業計画書やKY活動記録、更には点検表などが形骸化している傾向を強く感じる場面が多々ありました。非常に難しい問題ですが、それらの問題改善に今後取り組む必要があるのではないかと感じたりすることもございます。そんな中で少し明るい話題は建設業への女性の進出です。環境面などまだまだハードルは高そうですが是非頑張って採用して頂き、建設現場でも多くの女性が働く華やかな産業となることを心から願っております。

一方、近年は度重なる法令等の改正が行われ、昨年は足場規則の改正やストレスチェック制度の導入など。そして本年はロープ高所作業や化学物質におけるリスクアセスメントの実施などの規則が改正されます。労務、安全を担当する部署の皆様方にとっては、何かと忙しい年になるものと思われれます。札労研でもあらゆる方面からの情報収集を行い、少しでもお役にたてるよう取り組みを行いたいと考えております。

昨年、札労研では平成27年版「労災保険適用の手引き」を発行することが出来ました。そして平成28年には、「労災保険給付の手引き」「ライフラインの事故防止マニュアル」を発行する予定です。これら成果物を作成するにあたり貴重な資料を提出して頂いた事業者様や忙しい中、ご指導を頂いた行政の皆様方には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、平成28年は建設業にとりまして発展の年であり、会員の皆様方にとって幸多い年となりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

札幌中央労働基準監督署

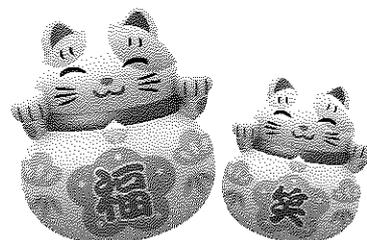
署長 吉村直起

あけましておめでとうございます。札労研の皆様には、平素から建設業における労働条件確保・改善対策や、よりよい労働環境の整備などにお取り組みいただいておりますが、新年におきましても引き続きご尽力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、雇用情勢は引き続き改善していると言われるいっぽうで、公共投資の減少などマイナス要因も出始めております。当署や総合労働相談コーナーに寄せられる相談も、最近は年間9000件程度にのぼっております。相談の内容別の割合は、労働基準関係法令に直接かかわるものが、①定期賃金不払16.1%、②年次有給休暇:12.1%、③割増賃金10.1%、④賃金不払残業6.4%、⑤過重労働・長時間労働4.6%、⑦解雇予告7.8%、などとなっています。この他、個別の労使関係を巡って民事上の問題をはらむものが、①いじめ・嫌がらせ6.0%、②退職勧奨2.8%、③雇止め1.6%等です。年次有給休暇に関する相談が案外に多く、「賃金不払残業」、「過重労働・長時間労働」、「いじめ・嫌がらせ」が相当大的な割合となっています。成果主義やIT化の進展によって精神的に余裕のない職場となっていることがこのような結果につながっていると考えられます。この種の問題への対応が不十分ですと、社会的注目を浴び企業として大きなダメージを負う心配もあります。ここに労働基準関係法令の履行確保や過重労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策の推進、労働者へのストレスチェック制度の有効活用が望まれる理由があると思います。また、札幌中央労働基準監督署管内における建設業の労働災害発生状況ですが、平成27年11月末で休業4日以上災害は死傷計で118件（対前年同期0.9%増加）、うち死亡災害5件（対前年同期同数）と横ばいの状況です。引き続き統括安全衛生管理体制の充実とリスクアセスメントによる事前の危険性・有害性の排除を徹底するようお願いする次第です。

新年においても、以上の諸課題について各方面のご理解を戴きながら取組みを進めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、平成28年が札労研の皆様にとってお健やかで良い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。





## 新年のご挨拶

札幌東労働基準監督署

署長 羽生和彦

新年あけましておめでとうございます。

札幌建設業協会労務研究会会員の皆様には、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、皆様の労働災害防止に向けてのご努力により、当署管内の建設業における労働災害は、減少となりました。

11月末現在の死亡と休業4日以上の災害の合計が154件と昨年の162件を8件、4.9%の減少となりました。残念ながら、死亡事故は、3件と昨年の2件を上回ってしまいました。

全産業では、1,093件（死亡7、休業4日以上1,086）と昨年の1,033件（死亡9、休業4日以上1,024）と比べて、60件、5.8%の増加となっております。

災害の型別では、墜落・転落が多く、重大な災害につながっております。足場に関する労働安全衛生規則が改正され、行政も重点的に指導してまいりましたが、なかなか効果は認められないようであります。

改正後の規則・ガイドラインの遵守以前の課題、すなわち規則制定時の昭和47年の基準にも抵触するような足場・作業床が残念ながら多く認められました。高所作業での原則が、守られていませんでした。

高所作業での原則とは、言うまでもなく、高さ2メートル以上の箇所での作業をさせる場合には、足場を組み立てる等により、作業床を設けること、その作業の端には、囲い・手すり・覆い等を設けることです。

いかなる場合であっても、この原則を守ることが重要です。作業の都合、工期・人員・経費等の事情により原則が破られることがあってはなりません。会員の皆様の現場では、このようなことはないでしょうが、今後も一層の原則遵守をお願い申し上げます。

交通事故も多発傾向にあります。一気に冬が到来し、地元のドライバーでも冬道運転に慣れるまでには、時間がかかります。慎重な運転、余裕を持った運転計画の作成をお願いします。

また、転倒災害も心配であります。足場の布板等に雪が積もると非常に滑りやすくなります。転倒防止を毎日のKY活動の重点項目としていただくと幸いです。

新たな法令施行の確認です。昨年12月1日から、ストレスチェックの実施が義務となりました。事業者は、働く方の心理的負担の状況を把握することが義務付けられました。50人未満の事業場は、当分の間、努力義務です。働く方ご本人の気づきの機会を提供すること、職場環境の改善が主たる目的です。50人未満の事業場におかれましても、積極的にストレスチェックを導入され、働きやすい職場をおつくりください。

結びに、札労研のますますのご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 第58回全国建設労働問題連絡協議会並びに 第34回全国労研交流会議参加報告



(一社)札幌建設業協会 労務研究会  
委員長 大谷 浩 樹

昨年、11月4日第58回全国建設労働問題連絡協議会、翌5日第34回全国労研交流会議が東京で開催され、札労研を代表して参加させて頂きました。今回は天候にも恵まれ何のトラブルもなく、無事協議会に参加することができました。前年は雪による高速道路の渋滞や航空機の機材繰りの欠航などが重なり、定刻を大幅に遅刻した記憶があります。今回で5回目の参加となりますが連絡協議会には全国から建設業協会、労研などの関係者約150人（内道内13人）が参加し、前回と同様に女性の活躍をテーマに13時から16時に渡り今後の施策等の報告がありました。

日本の建設業の名目建設投資は、92年をピークに20年間、右肩下がりに半減したのち2011年を底に上昇に転じており、今後も被災地の復興需要やインフラの維持補修、そして東京オリンピックなどで堅調に推移していくものと予想されます。しかし、建設業の就業者数は全産業の平均と比べても高齢者（55歳以上）の割合が高く、逆に若年層（29歳以下）の割合が低くなっており、このままの状態では近い将来、深刻な人手不足が確実であることから女性の進出が不可欠な状況であり、更には安倍政権が掲げる女性活躍社会に追随する形で今回はより女性の働きやすい環境整備のための法改正や助成金制度など、より具体的で現実的な内容のものでした。

また、若年層の入職においても「勤労青少年福祉法等の一部を改正する法律」の中で企業の適切な労働条件等の情報公開や適切な雇用管理そして能力向上教育

等を実施することで離職率の減少に努める趣旨が報告されました。次第については以下の通りです。

### 第1部「若者・女性の入職促進、定着応援セミナー」

- ① 青少年雇用促進法について
- ② 女性の就業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）について
- ③ 建設業における女性の活躍推進のための施策について
- ④ 若者・女性活躍に活用できる助成金等支援制度について

以上、厚労省及び国交省の担当者から報告がありました。

### 第2部「社会保険加入促進計画推進実務者会議」

- ① 社会保険加入状況の地域差についてのアンケート結果概要について
- ② 社会保険加入促進に向けた取り組み指針
- ③ 社会保険加入促進Q&A

尚、社会保険加入状況の地域差アンケートでは労働者単位の加入率が地方では9割台であるのに対し大都市圏では6割台と低くなっており、下請け業者数が多い大都市圏では重層請負構造が多いのが要因とのことでした。

次に翌日の労研交流会議では、全国各地より80名の労研関係者が参加し、活動成果の報告が行われました。近年、若年者入職促進に関しての取り組みも行われており、今回北海道は高校生を対象とした第一種酸素欠乏作業特別教育に関する報告でした。そして、昨年札労研で発行した「労災保険適用の手引き」も資料として配布されました。毎回思うことですが、全国の労研では本州大手ゼネコンが会員として名を連ねており、地元企業のみで構成されているのは北海道を含め僅かであり、その成果物においても特色が出ているように感じました。なお、今回札労研からは高橋副委員長、加藤労務管理副部長が参加しました。全国の労研活動を参考にして頂き、今後の札労研の運営に役立てて頂けたらと願う次第です。これをもって私の報告とさせていただきます。





## 第58回全国建設労働問題連絡協議会並びに 第34回全国労研交流会議に参加して

(一社)札幌建設業協会 労務研究会  
副委員長 高橋 雅勝

労研活動を行うにあたり、主要な情報収集の場である全国建設労働問題連絡協議会そして全国労研交流会議が、東京の鉄鋼会館で開催され、11月4日、5日の両日、札労研安全環境部会の代表として参加してまいりました。

この会議には、今回で3回目の参加となりますが、前回迄は、北海道の成果物について道労研安全部会を代表して発表するという重責を担っていたこともあり、とても緊張していた記憶があります。ただ今回は、発表という重責が無かった分、少しだけリラックスでき、とても有意義に過ごせた気がします。

初日の連絡協議会では、以前より問題となっている労働者不足に対して若年者の入職と女性の活躍を主要なテーマとして行政側からの説明が行われました。口で言うのは簡単ですが、現実的には非常にハードルが高い課題として考えていました。しかし今回は、これらを実現するための法整備や助成金制度を設けるなど、より現実的な対策が講じられ、一歩前進した感を受けました。将来はこの会議にも沢山の女性が参加することになれば更に意義のある会議となることでしょう。

会議の後は懇親会が行われ、普段は殆どお目にかかることのない厚労省労働基準局の方々や全国の労研関係者と交流することが出来、有意義な場であることを実感しました。

翌日の交流会議では、全国の労研の成果物の発表が



行われました。今回、北海道は高校生を対象とした入職促進のための特別講座を帯広労研の石橋氏（萩原建設工業㈱）がパワーポイントを使用し発表しました。この講座は、私も札幌地区の代表として札幌工業高等学校で行っており、今年も開催する予定です。我々は当たり前のように工事現場を見ていますが、高校生にとっては、とても新鮮に映ったようで興味深く視聴してくれました。中には寝ている子もいましたが……。他県の発表でも内容の充実したものが多くあり、今後の札労研活動にとっても参考となるものばかりでした。最後になりますが、労研という会は全国にあり、それぞれの地域で労働・安全等の問題に取り組んでおります。札労研しか知らなかった自分にとって、本会議はとても有意義なものであることを再認識させられました。



## 第58回全国建設労働問題連絡協議会並びに 第34回全国労研交流会議に参加して



(一社)札幌建設業協会 労務研究会  
労務管理部会副部長 加藤 元春

今回の東京会議、出発当日は冷え込みが厳しかったが天候に恵まれ、公共交通機関の遅れも、またそれに乗り遅れる事も無く無事出発出来ました。

11月4日は第58回と歴史のある、全国建設労働問題連絡協議会また、11月5日は第34回全国労研交流会議

に出席と、価値ある2日間となりました。

会議に参加して一番に感じた事、それは参加地域の労研の方々、そのほとんどが名だたるゼネコンの方々であると言う事であります。北海道は道内地元建設会社で編成されており、会場では本当に珍しい印象を感

じました。

初日の労働問題連絡協議会については、若年者（青少年）雇用促進と女性活躍推進についてでありました。その中で厚労省及び国交省の若いキャリア官僚の日本の方向性を感じる話を聞くことが出来て、大変参考になりました。

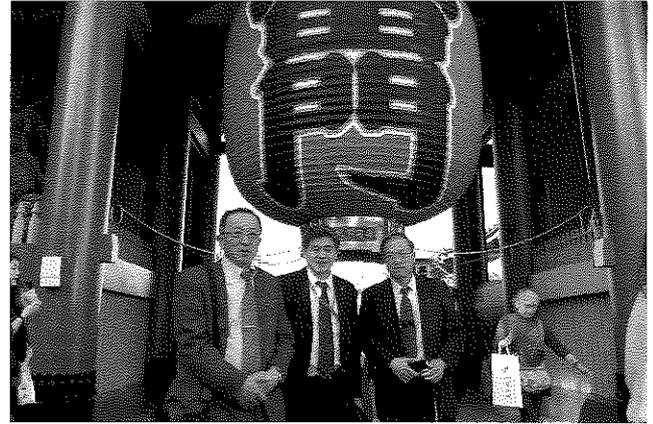
2日目は労研交流会議の発表会があり、発表者の地域性がとてもはっきりと表れた交流会議報告となりました。初日に議題であがっていた、若年者（高校生）に建設業をいかに理解してもらえるか？を、各地域で試行錯誤している実情が垣間見えました。

その報告の中で、出版会社と提携してビジュアル的に良い冊子を作り上げ、安価で提供している労研地域があり、広報や普及と言う面で非常に参考になりました。

初日の連絡協議会終了後、事務局側で懇親会を催して頂きました。

特に、広島県の労研の方から北海道で作成した様式集が大変役に立ったというお話や他の労研の方々や関係省庁の方々と名刺交換をさせて頂き、2日間の交流を行えたことは、私にとってキャパシティを拡げる貴重な財産となりました。

その後、道労研及び札労研の参加者合同の懇親会、いや意見交換会を「銀座」と言うところで開催しました。



詳しい報告はひかえませんが、北海道と言うだけでなぜか食べ物話になり、そして必ず『イクラ』『カニ』『鮭』になるのは何故であろうと、不思議でもありました、うれしくもありの会話で皆さん楽しいひと時を過ごしました。

何処の労研の方々もとても真面目に建設業の安全衛生・労務・雇用問題を建設業だけに建設的に取り組んでいらっしゃるという事を肌で感じた2日間でもあったと思います。

自分は、どこまで真剣であったか？帰ってから自問自答をしました。

これから、安全管理の強い思いを抱いて札労研の活動に邁進したいと思います。

皆さんも機会があれば参加されては如何でしょうか。

☆☆

### ★各地労研の成果発表★

- |         |  |        |   |
|---------|--|--------|---|
| (1) 大阪  | ①「ご安全に運動」繰り返し型災害防止のポイント<br>②会員の労働災害発生状況調査報告書（平成26年度および経年変化分析）                | (5) 愛知 | ①平成26年度入職・定着促進活動について  |
| (2) 仙台  | ①会報第63号による活動報告について<br>②建設業におけるワイヤーロープ・ベルトスリング等がわかる基礎知識 第3版について               | (6) 東京 | ①安全衛生委員会…安全衛生優良事例集、足場関連規則Q & A改訂 第2版、建設職長ノート他<br>②労務管理委員会…(仮称)わかりやすい労災保険制度、労務管理教材シリーズ3他<br>③教育委員会…平成27年度労研セミナー、危険体感教育事例集、企業の4大責任の研究他<br>④労務安全必携編集委員会…平成28年度版労務安全必携（書籍・CD-ROM）について<br>⑤建災防本部の活動報告…斜面掘削工事における土砂崩壊防止対策マニュアル、建設におけるメンタルヘルス対策のあり方他 |
| (3) 北海道 | ①第一種酸素欠乏作業特別教育（高校生徒を対象）<br>②漫画冊子「ただいま工事中!! 土木工事編」について<br>③「労災保険適用の手引き」について   |        |   |
| (4) 福岡  | ①平成27年度福岡労研活動状況<br>②安全部会 目で見ると安全設備（土木編・建築編・共通編）とヒューマンエラー<br>③労務・環境部会 安全の見える化 |        |   |

※各地労研の発表資料は、協会事務局にありますのでご覧になりたい方は事務局迄お問合せ下さい。

# 平成27年度「けんろく会」ゴルフコンペを開催しました!

## 第1回 平成27年5月30日(土)

現役、OB、関係団体あわせて総勢13名の参加の中、札幌市手稲区の札幌テイネゴルフカントリークラブにて開催しました。

当日の天気は、どんよりとした天候でしたが、皆さんのゴルフに対する熱い情熱により雨にもあたらず最後まで楽しくプレーすることができました。

今回、手稲山麓のアップダウンが非常に多く、スコアメイクに大変苦労され、参加者全員がオーバースコアとなり残念な結果となりました。

今回の優勝者は、一番のハンディ(HC34)の谷内さんでした。おめでとうございます。



開始前の集合風景



優勝者 谷内氏(株ユニット)

### ●成績

優勝：谷内 義弘氏(ユニット) グロス：109 (HC34)、ネット75  
 準優勝：大島 健一氏(岩田地崎) グロス：103 (HC24)、ネット79  
 3位：佐々木裕一氏(元大林) グロス：91 (HC11)、ネット80

## 平成27年9月19日(土) 第2回



開始前の集合風景

現役、OB、関係団体あわせて総勢14名の参加の中、石狩市生振の茨戸カントリークラブにて開催しました。

当日は午後からスタートしましたが、風もなくゴルフ日和と思いきや後半ハーフは、土砂降りの雨になり前回と同様に皆さん良いスコアをだすことができませんでした。

今回、幹事が優勝してしまい大変心苦しく思っておりますが、ご褒美だと思って勘弁して下さい。

来年も「けんろく会」ゴルフコンペを開催します！  
 楽しみにして下さい。

### ●成績

優勝：伊藤 勝行氏(田中組) グロス：87 (HC13)、ネット74  
 準優勝：渡辺 光祥氏(元鹿島) グロス：81 (HC5)、ネット76  
 3位：板橋 功氏(建荷協) グロス：112 (HC34)、ネット78



優勝者 伊藤氏(株田中組)

### ☆information☆

- ・次回開催予定 平成28年5月中旬頃に計画をしております。
- ・新会員の募集について  
 新会員を常時、募集しております。「けんろく会」に入りませんか？  
 連絡お待ちしております。
- ・平成27年度幹事：(株)田中組 伊藤 (電話：090-3394-7444)

# 我が社の安全衛生管理活動

新太平洋建設㈱

安全部長 坂本昌幸

## 1. はじめに

新太平洋建設㈱は昭和19年3月田中義一が大日工業㈱を資本金15.5万円にて設立し、札幌進出を果たして本社を南3条西4丁目の2階建ての2階に構えたのが始まりです。

平成26年4月に70周年を迎えて、現在、札幌本社、釧路支店、東北営業所他2か所で土木・建築工事を営んでおります。

当社は「良いものをプロの腕で造る」ほか3つの経営理念を掲げ、更にこの理念を実践していくための規範となる行動憲章を5つ定めております。

企業においてはCSR活動に取り組むことが、ステークホルダーに対して信頼、安心感等のプラスイメージを与えることから、企業価値の向上、企業の持続的発展につながるものと確信して、取り組んでおります。

以下に、我が社の安全衛生管理活動について紹介いたします。

## 2. 安全衛生基本方針・目標

基本方針「すべての作業に安全を優先させる」  
目 標「事故・災害ゼロ」

## 3. 年度の安全衛生管理推進計画

平成27年度実践スローガン

『正しい設備で安全作業  
みんなでつくろう ゼロ災害』

災害防止重点実施事項

- (1) 公衆災害（第3者災害の防止・ライフライン災害）の防止
- (2) 墜落・転落災害の防止
- (3) 交通災害の防止
- (4) 建設機械・クレーン災害の防止

## (5) 崩壊・倒壊災害の防止

を掲げ、項目ごとの具体的対策を立てて災害防止に取り組んでいます。

ほかに災害防止対策実施事項6項目、労働者の衛生・健康管理実施事項7項目を掲げて実践しております。

## 4. 安全衛生活動

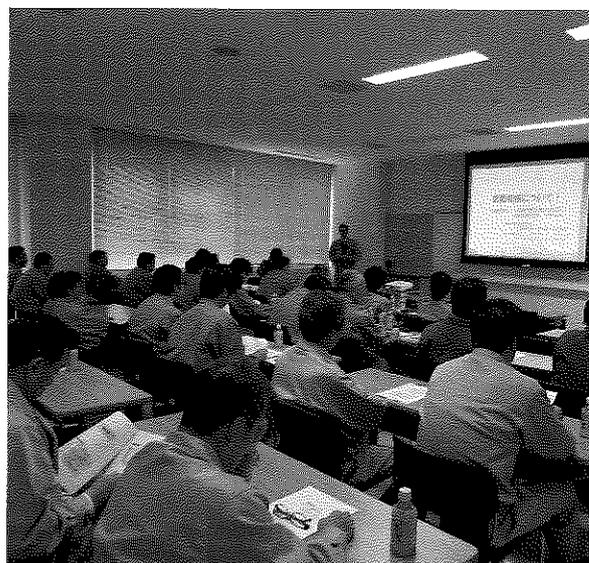
毎年作成する安全衛生管理推進計画書の中で年間行事予定表を計画し、その行事予定表に基づき以下の行事を実施しております。

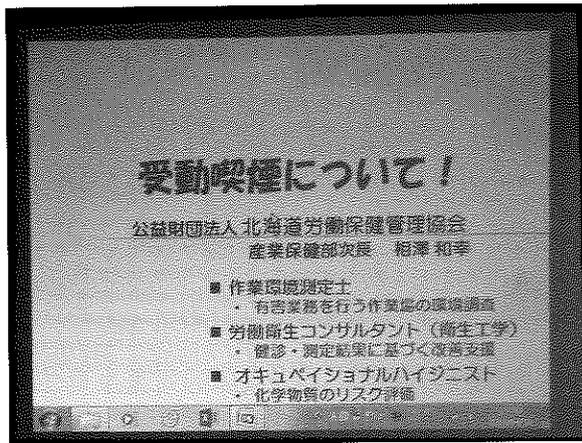
### (1) 社員教育

毎年4月中旬に土木・建築職員を対象にして「年度安全衛生推進計画・安全衛生規則・重大災害対策本部マニュアル」「社内安全書式改訂」「改訂安衛法・安衛規則」等の説明と外部講師による講演

平成27年度は「受動喫煙について」を実施しております。

社員教育





### (2) 安全衛生推進大会

毎年6月中旬に当社と安全衛生協力会合同主催で開催し、参加者は役職員、協力会会員会社合わせて180～200名参加で実施しております。

大会の内容は前年度優秀協力会社表彰、優秀災害防止活動現場実践発表等を行い、外部講師による講演の後、社員代表による実践スローガンを唱和して安全意識の高揚を図り、全員で「ヨシ！」と声を合わせて締めます。

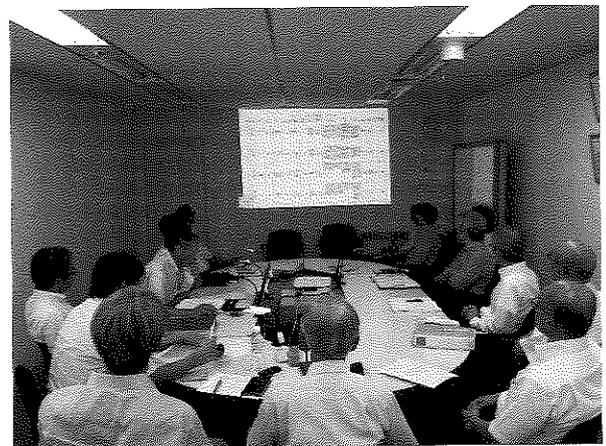
安全衛生推進大会



### (3) 安全衛生委員会

毎月1回 社長以下、安全衛生委員会メンバー出席の下、労働災害発生状況、安全パトロール実施結果報告、職員時間外労働時間・長時間労働者への対応等について意見交換し、安全衛生関係・交通安全情報資料の説明をおこない、終了後に会社ホームページに資料をアップして全社員へ周知、また、現場での安全管理活動への有効活用を図っております。

安全衛生委員会



### (4) 作業所の災害防止活動

#### ① 工事着工時における災害防止検討会

各工事の現場着手前に現場へ出向き、現場条件・作業条件等を確認してその実施対策を検討し、施工計画等の説明を受けて予想される労働災害の防止対策を検討します。

工事着工時における災害防止検討会



## ② 毎月の安全パトロール

当社では全現場を対象として1回/月以上、安全部単独もしくは現業部と合同でパトロールを実施し、社内専用の安全パトロール指導・指示書にて現場に指示して、現場からの改善処置報告書は社内管理部署、役職員の確認後にコピー版を現場にフィードバックする、システムを採用しております。

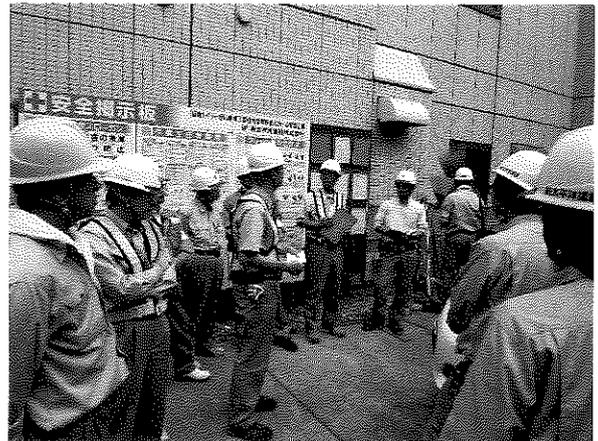
毎月の安全パトロール



## ③ 安全週間・衛生週間の行事

当社では安全週間・衛生週間の初日に本社は朝礼で社長メッセージの伝達からスタートして社長以下、関係役職員10～15名と関係協力会社合同にて全現場をパトロールし、社長品質目標である「全社一丸となって、全員参加による安全点検」を実践して、災害防止活動に取り組んでおります。

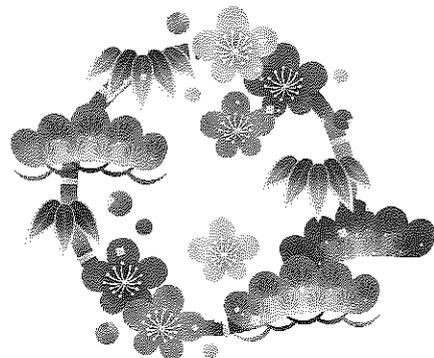
安全週間特別パトロール



## 5. おわりに

建設業界は労働者不足がさらに深刻になることが予想され、急激な円高による資材等の高騰でさらに厳しい状況が続きそうですが、いかなる状況下にあっても労働災害はあってはならないものです。

今後も現場と一体となって、全員が安全に作業するためにヒューマンエラーの絶滅、元・下一体となった安全管理を続けて、安全で安心して働ける職場づくりを目指してまいります。



# 札労研メモ

自 2015. 1. 1 ~ 至 2015. 12. 31

## ◆1/28(水) 安全環境部会

【出席者】伊藤部会長他各委員

【議題】

- 1) 『ライフラインの事故事例等について』製作会議他

## ◆1/28(水) 正副委員長・部会長合同会議

【出席者】大谷委員長他副委員長および部会長

【議題】

- 1) 常任委員会議題等について

## ◆2/10(火) 常任委員会

【出席者】大谷委員長他各委員

【議題】

- 1) 各部会活動報告ならびに今後の活動について
- 2) 労災保険適用の手引について



## ◆3/17(火) 正副委員長・部会長合同会議

【出席者】大谷委員長他副委員長および部会長

【議題】

- 1) 常任委員会議題等について

## ◆3/20(金) 常任委員会

【出席者】大谷委員長他各委員

【議題】

- 1) 各部会活動報告ならびに今後の活動について
- 2) 新年度の札労研役員体制について
- 3) 年間行事予定について

## ◆5/11(月) 正副委員長・部会長合同会議

【出席者】大谷委員長他副委員長および部会長

【議題】

- 1) 常任委員会議題等について

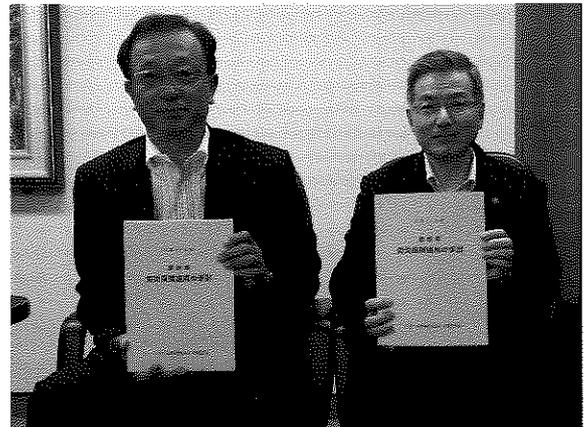
## ◆5/15(金) 常任委員会

【出席者】大谷委員長他各委員

【議題】

- 1) 各部会活動報告ならびにH27年度の活動について
- 2) 収支決算報告について

## ◆6/18(木) 『平成27年版 建設業労災保険適用の手引』 発刊



## ◆7/8(水) 安全環境部会

【出席者】伊藤部会長他各委員

【議題】

- 1) 『ライフラインの事故事例等について』製作会議他



## ◆7/10(金) 労務管理部会

【出席者】薄田部会長他委員

【議題】

- 1) 『労災保険給付の手引き』発行会議

◆7/24(金) 企画部会

【出席者】 田中企画会担当委員他各担当委員

【議題】

- 1) 札幌研だより編集会議



【場所】 わくわくホリデーホール

【参加者】 約800名

札幌労務研究会各委員が受付等の協力として参加

◆10/28(水) 賃金管理・公共事業労務費調査の研修会

【場所】 北海道建設会館 大ホール

【参加者】 会員企業、建専連北海道所属企業あわせて約100名

【研修内容】

- 1) 講話「正しい労務管理のための基本事項」  
講師 札幌中央労働基準監督署  
第1方面主任監督官 小原 信也 氏
- 2) 「公共事業労務費調査票の適切な記載に向けてのポイント」  
講師 札幌労務研究会

労務管理部会長 薄田 将人  
労務管理副部長 加藤 元春

◆8/28(金) 正副委員長・部会長合同会議

【出席者】 大谷委員長他副委員長および部会長

【議題】

- 1) 常任委員会議題等について

◆8/28(金) 常任委員会

【出席者】 大谷委員長他各委員

【議題】

- 1) 各部会活動報告について
- 2) 賃金管理・公共事業労務費調査研修会及び相談会について
- 3) 公共事業労務費調査説明会協力について



◆9/16(水) 労務管理部会

【出席者】 薄田部会長他委員

【議題】

- 1) 『労災保険給付の手引き』編集作業

◆10/14(水) 公共事業労務費調査地方説明会

【主催者】 国土交通省



◆10/28(水) 公共事業労務費調査にかかる賃金管理相談会

【場所】 北海道建設会館 8階A会議室

【参加者】 26社

【対応者】 大谷委員長・薄田部会長他労務管理部会各委員が相談員として対応



◆10/29(木) 安全環境部会

【出席者】伊藤部会長他各委員

【議題】

- 1) 『ライフラインの事故事例等について』製作会議他

◆11/11(水) 労務管理部会

【出席者】薄田部会長他委員

【議題】

- 1) 『労災保険給付の手引き』編集作業



◆11/4(水)～5(木) 全国建設業労働問題連絡協議会及び全国労研交流会議

【場所】東京都 鉄鋼会館

【出席者】札幌労務研究会委員長 大谷 浩樹  
 札幌労務研究会副委員長 高橋 雅勝  
 札幌労務研究会労務管理副部会長  
 加藤 元春



◆12/4(金) 労務管理部会

【出席者】薄田部会長他委員

【議題】

- 1) 『労災保険給付の手引き』編集作業

◆12/4(金) 企画会

【出席者】田中企画会担当委員他各担当委員

【議題】

- 1) 『札労研だより』発行会議

◆12/4(金) 正副委員長・部会長合同会議

【出席者】大谷委員長他副委員長および部会長

【議題】

- 1) 常任委員会議題等について

◆12/4(金) 常任委員会

【出席者】大谷委員長他各委員

【議題】

- 1) 各部会活動報告ならびに今後の活動予定について
- 2) 公共事業労務費調査研修会ならびに賃金管理相談会実施報告について
- 3) 全国労研交流会議の参加報告について
- 4) 札労研だよりの発行について

◆12/8(火) 労務管理部会

【出席者】薄田部会長・加藤副部会長・福田委員

【議題】

- 1) 『労災保険給付の手引き』編集作業

※正副部会長合同会議、常任委員会ならびに各部会の活動場所は全て札幌建設業協会会議室で開催しています。

平成28年の活動予定

- 3月 正副・部会長会議  
常任委員会  
『ライフラインの事故事例等について』発行予定
- 5月 札労研総会  
正副・部会長会議  
常任委員会  
『労災保険給付の手引き』発刊予定
- 8月 正副・部会長会議  
常任委員会
- 12月 正副・部会長会議  
常任委員会

※各部会活動は必要に応じて随時開催

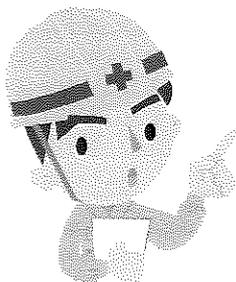
## 一般社団法人 札幌建設業協会 労務研究会 常任委員名簿

- 委員 長 大谷 浩 樹 (株) 石 山 組 【札幌協労務委員会委員・道建協労務委員会委員・道労研副委員長兼任】
- 副委員 長 高橋 雅 勝 (株) 中 山 組 【札幌協労務委員会委員・道労研安全環境部会長兼任】
- 副委員 長 薄田 将 人 北土建設(株) 【札幌協労務委員会委員・道労研賃金管理部会委員兼任】  
労務管理部会長
- 安全環境部会長 伊藤 勝 行 (株) 田 中 組
- 企画会担当責任者 田中 清 貴 勇建設(株) 【札幌協労務委員会委員・道労研労務管理部会委員兼任】

◎⇒部会長、○⇒副部会長、★⇒企画会担当責任者、☆⇒企画会担当

部会	氏名	会社名	部会	氏名	会社名
労務管理部会	◎ ☆ 薄田 将 人	北土建設(株)	安全環境部会	◎ ☆ 伊藤 勝 行	(株) 田 中 組
	○ ☆ 山田 昌 俊	伊藤組土建(株)		○ 金山 二 樹	岸本産業(株)
	○ ☆ 加藤 元 春	丸彦渡辺建設(株)		○ 本間 博 司	岩田地崎建設(株)
	福 田 徹	杉原建設(株)		高橋 雅 勝	(株) 中 山 組
	河 端 伸 明	北海土木工業(株)		☆ 坂 本 昌 幸	新太平洋建設(株)
	渡 部 正 力	(株) 玉 川 組		★ 田 中 清 貴	勇建設(株)
	北 畑 純 一	恵庭建設(株)		池 田 良 利	札幌工業(株)
	小 玉 博 之	道路工業(株)		阿 曾 清	(株) 山 田 組
	松 田 元 之	大東工業(株)			
		武 山 泰 司		勇建設(株)	事 務 局
	神 田 俊 彦	(株) 大 庭 組			

平成28年1月現在



カメラが見た

# 安全の工夫 いろいろ

## 車両検知システム（カーデル・カークル）



**カーデル**  
現場より出場する建設車両の存在を付近の通行車両や歩行者に通知する



**カークル**  
現場より出場する建設車両に対し、付近を通行する一般車両の存在を通知する

### ポイント

赤外線感知センサーを用い、現場出入り口の回転灯と電光掲示板を連動させ車両等の接近を周知し、現場関係車両と付近を通行する一般車両・歩行者との接触事故防止に努めた。

## 建設機械との接触災害防止



### ポイント

建設機械と作業員との接触災害防止対策として、作業計画書・手順書での周知とともに、作業箇所の立入禁止範囲を明示した看板を設置し、安全確認を徹底した。